

| | | | | | | | | | | |
|--|-------|-----------------------|-----|--|--|-----------------------------------|----|----|----|----|
| 事務事業名 | | 大船渡ブランド化推進事業 | | <input checked="" type="checkbox"/> 実施計画登載事業 | | <input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業 | | | | |
| 政策体系 | 政策名 | 011 豊かな市民生活を実現する産業の振興 | | 事業期間 | | 予算科目 | | | | |
| | 施策名 | 055 豊かな地域資源を活用した観光の振興 | | | | 会計 | 款 | 項 | 目 | 事業 |
| | 基本事業名 | 011 観光客の誘致と観光宣伝の充実 | | | | 01 | 07 | 01 | 04 | 05 |
| 根拠法令 | | | | <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 平成12 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 ↓ 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入 | | 事務事業区分 | | | | |
| 所属 | 部課名 | 商工港湾部観光推進室 | | | | A 政策事業 B 施設整備 | | | | |
| | 課長名 | 鈴木 弘 | | | | C 施設管理 D 補助金等 | | | | |
| | 係名 | 電話 | | | | E 一般(A～D以外) | | | | |
| 担当者 | 高木 隆幸 | 内線 | 114 | | | | | | | |
| 事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) | | | | 全体計画(※期間限定複数年度のみ) | | | | | | |
| 当事務事業の中には大船渡ブランド化推進会議と大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会の2つの外郭団体がある。 大船渡ブランド化推進会議は、近年の観光物産の動向と需要に的確に対応し、かつ地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進することによる地域の活性化を図ることを目的としている。主な活動としては、椿の里・大船渡PR事業、新大船渡グルメ普及事業等を行っている。 大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会は、大船渡市のグリーン・ツーリズム(農家・漁家体験型観光及び民泊)を推進するために、啓発、普及、情報発信等を実施し、都市との交流により地域の活性化に資することを目的としている。主な活動としては、受入れ体制整備及び人材育成事業、普及啓発・情報発信活動事業等を行っている。 事業費は、2つの団体への負担金として支出される。 | | | | 総投入量(千円) 事業内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0 | | | | | | |

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)
 大船渡ブランド化推進会議・大船渡おためメニュー発掘事業「大船渡グルメグランプリ」を実施し、市内の食のメニュー発掘と情報発信を行なった。加えて、大船渡さんまら〜めんMAPの作製を行った。
 大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会・ホームページでの情報発信を行うとともに碓石海岸穴通船のパンフレットを作製した。また、体験観光の模擬実施により実践者のスキルアップを図った。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)
 事業廃止

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

直接対象: 大船渡ブランド化推進会議及び大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会
 間接対象: 地域資源、大船渡市民及び観光客

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

- ・ (大船渡ブランド化推進会議及び大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会を)円滑に運営してもらう。
- ・ (市民に)地域の資源の素晴らしさを再認識してもらう
- ・ (観光客に)大船渡の魅力を分かってもらう

④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)

- ・ 大船渡市を訪れる。
- ・ 魅力がPRされ、認知度が高まる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

| 名称 | 単位 |
|---------|----|
| ア 実施事業数 | 件 |
| イ | |
| ウ | |

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

| 名称 | 単位 |
|-------------------|----|
| カ 歳入決算額 | 千円 |
| キ 交付率(交付金額/収入決算額) | % |
| ク 構成団体数 | 団体 |

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

| 名称 | 単位 |
|---------------|----|
| サ 観光入込客数(年実績) | 千人 |
| シ | |
| ス | |

(2) 総事業費・指標等の推移

| 投入量 | 事業内訳 | 単位 | 年度 | | | | | |
|-------|----------------|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | | | 27年度(実績) | 28年度(実績) | 29年度(目標) | 30年度(目標) | 31年度(目標) | 32年度(目標) |
| 事業費 | 国庫支出金 | 千円 | | | | | | |
| | 都道府県支出金 | 千円 | | | | | | |
| | 地方債 | 千円 | | | | | | |
| | その他 | 千円 | | | | | | |
| | 一般財源 | 千円 | 741 | 541 | | | | |
| | 事業費計(A) | 千円 | 741 | 541 | 0 | 0 | 0 | |
| 人件費 | 正規職員従事人数 | 人 | 1 | 2 | | | | |
| | 延べ業務時間 | 時間 | 160 | 160 | | | | |
| | 人件費計(B) | 千円 | 640 | 640 | 0 | 0 | 0 | |
| | トータルコスト(A)+(B) | 千円 | 1,381 | 1,181 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑤活動指標 | ア | 件 | 6 | | | | | |
| | イ | | | | | | | |
| | ウ | | | | | | | |
| ⑥対象指標 | カ | 千円 | 741 | 541 | | | | |
| | キ | % | 100 | 100 | | | | |
| | ク | 団体 | 33 | 33 | | | | |
| ⑦成果指標 | サ | 千人 | 883 | 730 | | | | |
| | シ | | | | | | | |
| | ス | | | | | | | |

| | | | |
|--------|------|-------|--------------|
| 事務事業ID | 0442 | 事務事業名 | 大船渡ブランド化推進事業 |
|--------|------|-------|--------------|

| | |
|--|---|
| (3) 事務事業の環境変化・住民意見等 | |
| ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ | 平成11年度に実施した国土庁地方振興アドバイザー派遣事業の具現化を図るとともに、地域資源を再評価して吸引資源の発見・再生等について情報交換を図りながら、本市の観光物産振興のためのソフト面を中心とした振興策の検討・推進を図るため、平成12年度に開始された。 |
| ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ | <ul style="list-style-type: none"> ・通過型の観光から滞在型・体験型への転換を図るための事業を展開し、観光資源の発掘・創造を行い、一定のメニューを揃えることができた。 ・大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会の事務局は当初(平成14年度)、農林課で担当していたが、平成18年度から商工観光物産課に移管された。 ・平成19年8月31日付けで3省(総務省、文部科学省、農林水産省)連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が示されたことに伴い、体験型観光や農漁家民泊等への需要と期待が高まった。 ・平成26年9月に大船渡市観光ビジョンを策定した。 |
| ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ | ブランド化会議での事業提案や進め方について、各委員による突っ込んだ検討を進めるべきであるとの意見が出されている。 |

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

| | | | |
|-----------------|--------------------|---|---|
| 目的 妥当性 評価 | ① 政策体系との整合性 | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】 | 地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討、推進している大船渡ブランド化推進会議と農村等における体験型観光の推進による地域の活性化を図っている大船渡市グリーンツーリズム推進協議会の運営を支援することは、豊かな観光資源をもとに、観光イベントの積極的な展開や体験型観光、広域観光の推進により観光客の誘致に効果的であると期待されている。 |
| | ② 公共関与の妥当性 | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】 | 負担金以外の収入はなく、事業費を回収できないため、民間による実施は困難で、公共の関与が必要となる。観光物産振興による経済波及効果が期待できるため、市が関わることは妥当である。 |
| | ③ 対象・意図の妥当性 | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】 | 大船渡ブランド化推進会議は、官民一体となって地域資源を活用した効果的な観光物産振興策を検討し、その結果を事業展開することで地域活性化を図ることを目的に活動している。また、大船渡市グリーンツーリズム推進協議会は、農村等における体験型観光の推進による地域の活性化を図っている。会議及び協議会は観光の推進を図ることを目的としていることから、妥当である。 |
| 有効性 評価 | ④ 成果の向上余地 | <input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 | 地域資源のブランド力の向上を図ることによって成果が向上する余地はある。 また、体験型観光については、大人数での対応が難しいものがほとんどとなっている。今後、大人数での対応が可能なメニューの発掘、拡充により、向上する余地はある。 |
| | ⑤ 廃止・休止の成果への影響 | <input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 | 大船渡ブランドの低下や体験型観光の縮小が考えられ、観光地としての魅力を失い、入込観光客数の減少につながるものと考えられる。 |
| 効率性 評価 | ⑥ 事業費の削減余地 | <input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 | 事業費の削減が成果の低下に直結する。 |
| | ⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 | <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 | (一社)大船渡市観光物産協会等への事務局移管(委託)によって削減は可能であると考えられる。 移管時期等や行政の責任等について、(一社)大船渡市観光物産協会等との検討が必要。 |
| 公平性 評価 | ⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 | <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 | 特定の業種・業者の利益にならないよう、幅広い委員の構成とし、希望者の参加が可能な体制としている。 |

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----|-----|--|--|--|----|----|----|----|----|--|--|----|--|---|----|---|---|
| (1) 改革改善の方向性 | (2) 改革・改善による期待成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止 | 左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 | <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> | | コスト | | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | 維持 | | × | 低下 | × | × |
| | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | × | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大船渡ブランド化推進会議は、委員から組織の解散について提言を受けており、平成29年度に解散する予定である。 大船渡ブランド化推進事業のうち大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会事業は、大船渡グリーンツーリズム推進事業に引き継がれる。また大船渡ブランド化推進会議事業の一部は観光推進室の事業として引き継がれる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

4 課長等意見

| | |
|---|---|
| (1) 今後の方向性 | (2) 全体総括・今後の改革改善の内容 |
| 1 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止 | ・大船渡ブランド化推進会議は平成29年度に解散予定であり、大船渡ブランド化推進事業としての29年度予算は措置していない。 ・平成29年度からは、大船渡市グリーン・ツーリズム推進協議会への負担金支出のためのグリーン・ツーリズム推進事業を新設した。 |